

平成 24 年 9 月 24 日

## 9 月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木の丸太生産状況は、市況の反発と好転が続き盆あけ以降回復。国有林の出材も順調で全般に入荷が増加していることから、スギは柱材はじめ落ち着いた引合いに転じている。ヒノキは入荷が増加しているもののスギほどではなく、一部在庫確保の動きもあって引合いが戻った。価格はスギ柱材が一服感から弱保合に転じ、ヒノキ柱材は買方の在庫少なく、買い意欲が戻り強含みで続伸。中目材はスギ、ヒノキとも強保合で推移。群馬の製材工場の 8 月の操業はやや期待はずれの低水準。原木の入・出荷、在庫とも問題なし。長期優良住宅ブランド化事業は、まだ軌道に乗っていない状況。一般住宅は依然苦戦している。

### 2. 米材

7 月の米国新設住宅着工戸数は、前月比 1.1% 増の年率 74.6 万戸。米国丸太は、山火事の影響で出材はスロー、供給はタイト、価格は保合。カナダ丸太も先月同様大手サプライヤーの減産が続く、伐採量は減少。相場はセカンドグロスが保合、オールドは強含み。産地の港頭在庫は、大きな変化なし。ウェアハウザー社の 9 月積み米マツ IS ソートは前月価格を据え置き。米材丸太の入・出荷は横這い、在庫は減少傾向。大型港湾製材工場の 8 月の荷動きは若干回復した模様。内陸部製材工場は引続き低調で、当用買いが続く。製材品の TLT(東京木材埠頭) 8 月入荷量は、36,810 m<sup>3</sup> で前月比 11.9% 減。出荷量は同 2.5% 減で、在庫も 6.2% 減。産地情勢は、原木の不足感が出始めており、生産は概ね順調なるも今以上の生産増加は見込み辛い。一方、米国市場の堅調を受け、各工場とも北米中心の生産体制にシフトしており、アイテムによっては日本向けもタイト感が出始める。産地価格は引続き堅調に推移している。

### 3. 南洋材

サバは断食休みによって一時帰国したインドネシア労働者の帰還が遅れ、労働者不足が顕在化。海外からの注文が少ないため、現地は伐採、製材の生産調整を行い、価格の急落を防いでいる状況。サラワクは原木輸出の勢いが未だ戻らず、価格は小径木を中心に下落傾向が続く。日本向けの原木、合板輸出大手

シッパーの動向が注目されているが、秋から冬にかけて極端な値下げ要求に應ずる気配はない。PNG・ソロモンの出材は依然順調。中国からの引合いに支えられ横這いの状況。南洋材丸太の入・出荷は横這い、在庫はやや減少。製材品の入荷は減少。原木の販売は、合板・製材用とも低迷。製材品は無垢板やフリー板が若干上向きの兆し。棒類や一部デッキ材は堅調が続く。

#### 4. 北洋材

ロシア極東は日本向けカラマツ丸太の引合いが依然弱い。アムール出し丸太のFOB価格は低迷しているが、船運賃の上昇が続いており、本船確保は容易ではない状況。シベリア地方は9月から冬山造材が開始される予定。ロシアのWTO加盟に伴い、アカマツ丸太の輸出税は25%→15%に低減されるが、日本国内のアカマツ需要は激減しており、影響は限定的と思われる。なお、エゾマツ、カラマツ丸太は今後も25%の税率が適用される模様。富山港・富山新港の8月丸太入荷は4,602 m<sup>3</sup>(エゾマツ)で、前月比38%減。一方、製品は3,855 m<sup>3</sup>で同29%減。丸太の荷動きは引続き低調。製材品はアカマツ輸入完成品のうち良材に荷動きあり。出荷は低調で在庫は2~3ヶ月。丸太価格はエゾマツ、カラマツ、アカマツとも横這い。製材品はアカマツ輸入完成品の良材が下げ止まり。国内製材工場の採算状況はエゾマツ原板挽きはトントンで、アカマツ丸太・原板挽きとも不採算。稼働状況は受注生産で受注は引続き低調。

#### 5. 合板

国産材、南洋材メーカーともに、減産継続により、丸太の手当ては鈍い状況に変わらない。丸太価格は全般に弱い状態が続いており、手当てを急ぐ局面ではないことから減産に見合った手当てが続く。7月の国内合板生産量20.2万m<sup>3</sup>のうち、針葉樹合板は18.5万m<sup>3</sup>で先月をわずかに下回った。出荷量は21.4万m<sup>3</sup>で今年最高となり、生産量を大幅に上回ったため、在庫量は前月より3万m<sup>3</sup>減少した。品薄品目が出始めているメーカーもあり、着実に在庫は減っている状況。針葉樹合板は前月同様にメーカー側の唱え値には届かず保合が続く。メーカーの在庫が減少傾向なことから、市場では下向きのムードは感じられないものの、値戻しへの反応は鈍く、揉み合いの状況。国産合板の荷動きは、好調な直需に対し、一般ルートは引き続き低調。価格は保合が続き市場では実需に伴った慎重な手当てが続き、当用買いに変化はない状況。輸入合板の荷動きは12mm厚品を中心に良好。特に、タイトな品目を筆頭にじり高傾向。輸入合板の先行きは、秋口に向け需要回復の期待が強く、針葉樹、輸入合板ともに川上の在庫が減少傾向なことから、今後は品薄品目を中心に価格は引き締まる見通し。品目によっては不足への懸念も出始めており、需要動向が注視されている状況。

## 6. 構造用集成材

9月の原料・ラミナの入港は、現地の夏休み前の出荷だったことから順調に入荷。しかし、10月の初旬から中旬にかけては、中国からの帰り荷の関係等で入港が少なくなる見込。国産集成材の受注、販売、荷動きともに引続き上向きで在庫は少ない。価格動向は、フレートが先月同様値上げとなったままで、円高の状況から見ても、ラミナのユーロ価格は引き続き値上げ唱えの状況。輸入集成材は現地価格で強気の値上げ交渉となっており、管柱に関しては、底値からの脱却の動きがある。構造用集成材の荷動きは上向きで、各メーカーとも値上げを唱え、10月からの値上げも予測される。

## 7. 市売問屋

構造材は、盆あけ後もスギ、ヒノキとも動きは低調、WW等外材は、国産材に比べ若干荷動きはあるものの低調の域を出ない。造作材は、国産材ではリフォームや公共工事需要は活発ながら、まとまった量の出材は少ない。外材は、相変わらずスプルース・ピーラ等の良材の入荷少なく、対応が難しい状況。一般建築需要が少なく、仕事量が減少しているため、買い方の意欲が低く、市日の来場者も少ない。消費増税による駆け込み需要や国産材使用に対するポイント制度復活等期待感はあるものの、当面は厳しい状況が続くと予測。

## 8. 小売

国産材の構造材価格は、スギKD柱、小割、板割、ヒノキKD柱、土台いずれも保合。外材は、米ツガKD平割、正角、ロシアアカマツ垂木、WW間柱いずれも保合。造作材はスプルース、ナラ、タモの平割良材少なく強保合。WW、RW集成材は梁、柱とも保合。針葉樹合板・ラワン合板とも保合。床板、フローアは変わらず。プレカット工場は、加工費・材料価格変わらず。地場工務店から新築依頼が続いているので明るさが若干出てきた。今後は消費増税関連の駆け込み需要を期待したい。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)